

会員の皆様へ

新型コロナウイルス感染症の拡大に対処する奈良県知事の会見は、会見後に奈良県ホームページに動画と会見資料が配信されます。けれども、字幕や文字によるサポートがありません。

奈良県中途失聴・難聴者協会の賛助会員のご尽力により、文字起こし文をつけることができました。内容を忠実に文字に変えてもらっていますが、マイクの調整具合などの関係で、聞き取りにくい部分があったり、話し手が、曖昧な単語を使ったり、指示語を多用したりすることで、聞こえる人でも、内容の理解がむずかしい部分もあります。

そのような部分は、文字起こし文も読みにくくなっていますが、現時点でのできる限りの対応でありますことをご了承ください。

司会／第24回奈良県新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催します。

奈良県では、4月27日より奈良県緊急対処措置を実施し、6月21日からは第4期奈良県緊急対処措置を実施している。

新規感染者数は5月中旬以降減少傾向だったが、6月中旬以降は増加傾向も見られる。

このような状況の中、本日は、最新の感染状況を踏まえた県民の皆様へのお願いを中心に情報共有を図りたい。

では、本部長よりご発言をお願いします。

知事／急遽、臨時の対策本部会議を開く。

定例記者会見があるので、それに合わせて会議をさせていただく。

内容は、司会から説明のあったとおりです。

目次は、この三つにしている。

まず、最近の感染状況について。

4 ページ

2週連続で増加している。

奈良の傾向は、大阪の波に従って下りていたが、(グラフの右端のように)大阪が下りてきているのに奈良が飛び上がっているのが異常値だと判断した。

その原因を探り対策を講じることが、今回の対策本部会議の主眼です。

5 ページ

分析をして、感染経路類型の変化を捉えた。

家庭内感染は45%で約半分弱。

これは(6月13日以前の集計と)変わらない。

しかし、クラスターと家庭外感染の比率が大きく変わってきている。

クラスターが少なくなる一方、家庭外感染が大変増えてきている。

6 ページ

家庭外感染の中で、友人等との交流による感染類型が増えてきている。

これについては、7ページに詳しく載せている。

## 7 ページ

家庭外感染の中で、友人との交流に結びつくと思われるので、感染場所の調査を見ると、飲食店に行った割合が増加している。

従来の6月13日以前の推定感染場所は、居宅が多かった。

それが、居宅を超えて飲食店が増加した。

量は少ないが、外での友人等との会食が、割合としては主流になってきているように見える。

## 8 ページ

市郡別で判断すると、従来は大阪の影響が強いと注意をしていた奈良市・郡山市・生駒市・香芝市・生駒郡は、軒並み減ってきている。

これが今回の感染状況の大きな特徴だ。

例えば奈良市は-91%、郡山市で-57%、天理市で-72%、生駒市で-89%。

大阪との由来が多いところは、6月14日以降、軒並み減少している。

一方、増えてきたのが、橿原市は1.48%、桜井市が21.56%、高田市も他の減り方に比べてそんなに減っていない。

この三つの町で、6月14日以降に何か起こっているのではないか。

これが、探索の糸口です。

## 9 ページ

翻って、調査中112名の行動歴を見ると、2分の1を超える61名に、飲食店の利用歴がある。

大都市では飲食店が敵のように言われ、飲食店の時短と酒類提供停止が人流を止める大きな方法だという政策を国ではとられている。

奈良ではその必要があるのだろうかと考え、人流を止めることではなく、個別の飲食店で何か起こっているのかに着目をした。

しかし、一般に飲食店の利用歴がある中で、どのようにうつったのか、あるいはうつらなかったのかが、調査のポイントになる。

## 10 ページ

他は軒並み7割やそれ以上減っているが、桜井市・高田市・橿原市に着目すると、スナックなどで集団感染が発生していることがわかった。

本日この対処会議で、この三つの案件にクラスター認定の判断をしたい。

三つの類型をざっと見ていただくと、感染者数は、合計7名とか6名とかのレベル。

店主がみんな感染している。

また、高田市・橿原市は従業員が大きな数字を占めている。

桜井市は店主1人の店なので、店主1人が感染している。

桜井市の利用客6名というのは判明しているが、高田市・橿原市は、利用客はあったが、誰がうつっているのかが、わからない。

利用客には店舗から個別に連絡をしているが、スナックなどは、感染があった日に行っていたか明らかにならないのが常だ。

後でフォローしてもなかなかわからない。

感染場所での濃厚接触者がわからないまま、自身が感染したかどうかはわかるまでにうつしてしまう感染の連鎖が起こる。

この場合でも、利用客はあとをフォローして探索をしているし、高田市・樫原市には連絡済みということだ。田舎の店だと連絡が全部取れるかもしれないが、(この例では) 連絡が取れてないかもしれないし、検査はまだしてないということだ。

桜井市は、従業員は店主1人なので、検査済み。

店主からは、申告のあった利用客10名のPCR検査をすませているとのことだ。

そのうち6名が、陽性だった。

店舗は、わかって以来、休業中。

店主や従業員が感染者なので、店は開くに開けないということだ。

この三つは、軒並み店主・従業員が感染し休業というのが共通の特徴だ。

店の設備関係の特徴を、真ん中の欄に載せている。

例えば、桜井市ではアクリルは板ない。

ここには書いてないが、この店ではカラオケのサービス提供されていたようだ。

それも影響しているかと思う。

高田市の場合は、換気扇はあるが換気は十分ではない状況。

樫原市は、マスクの装着がないし、アクリル板の設置がなく、店の設備サービスの面で不十分だとわかっている。

クラスター認定をすると、福祉クラスターの場合は笠原先生の指導を受けていただくので再発がない。

しかし、飲食店やスナックなどでは、再発防止の指導を受けていただけるかどうかは、個別の調整になる。

このような事例から判断して、飲食店協会のようなところを通じて資料を撒き、情報共有をお願いしたいと思う。

## 11 ページ

これは、桜井市の案件になる。

他の店でも注意していただくといい要件も入ってるので、情報共有する。

一つ目は、利用者の長時間滞在。

それによる感染拡大。

また、桜井の場合は従業員が店主1人なので、利用客がうつしたのか店主がどこからかうつってきたのかはわからないが、利用客の1人が店主にうつし、その店主が別の日に訪れた利用客にうつす、感染の連鎖が発生してるのかもしれない。

感染の連鎖は、初源はわからなくても、毎日通っているお客さんがいればそのうちのどこかで、日によって客の顔が変わっていればその人がうつれば、ある日うつった客と2日後にうつった客というのがわかるので、うつす元は店主ということになるかもない。

それによって、連鎖があったと想像できる。

リスクの内容について説明する。

長時間おられますと、長時間黙って酒を飲むのは難しいようなので、ついマスクを外したまま会話する。

話し込みに行くのか、お酒を飲みに行くのか。

話をすることがサービスの代金にも入っているし、内容になっていると思われるので、感染リスクが高まる。

この店の場合はカラオケ利用があり、それも理由となる一つの典型的なパターンだと思う。

## 12 ページ

このようなリスクについてだが、長時間の飲食でアルコールが入ると、会食時間は統計的には2倍になる。会話が長持ちするので、その分感染リスクが上がる。

また、会話が店のサービスの大きなものなので、マスクだと顔が見えないからとマスクなしに会話や飲食をされると、ずいぶん感染可能性のリスクが高くなる。

会話の中で咳をすれば、飛沫が3,000個。

ひとつでも入ると感染する可能性がある。

これだけ飛ぶのです。

また、マスクを外してカラオケをすると、通常の会話よりも8.5倍飛ぶ。

飲食中だと余計元気が出て吐く息が強くなり、15倍飛沫が飛ぶということです。

飲食・カラオケは要注意ということがわかってきている。

### 13 ページ

高田市・櫃原市の案件については、お客さんをフォロー中です。

その関係もある。

従業員を中心に感染しているが、お客さんにうつしている可能性は高いと思う。

高田市のケースでは、換気扇は回しているが、馬力が弱く換気の状態があまり良くないことがわかっている。

櫃原市の場合はアクリル板の設置がない。

両案件とも、マスクは着用されていなかった。

そばで話をするのが、サービスの内容になっていたと思われる。

これは従来パターンの、密着サービスの延長であろうと思われる。

注意が不十分だと、お酒が入れば感染が増えるという例です。

奈良県は、酒類を出していいことになっている。

酒を出す店に注意をしてほしいことを具体的に検証し、情報共有をしたい。

### 14 ページ

リスクの内容です。

従業員や利用者のマスク着用は、当然。

最近ではホテルの従業員も、このような時勢なのでマスクをして失礼しますと入るのだが、このような店に入ると、「なんだ。マスクをしているのか」と言われるかもしれませんが、顔を見せてサービスをされているということであったようです。

従業員と利用者が近距離で会話や飲食をすると、感染リスクが増える。

例えば、座る位置が隣だと、斜め向かいに座るよりもリスクは11倍に増える。

笠原先生の指導を仰いで発表したり、内閣府の統計を引用している。

隣に（人が）来たら、マスクをつけてくれとか言わなきゃいけない。

それから設備面では、換気が悪い、アクリル板の未設置。

これも、多少リスクの軽減に役立つ（よう改善してほしい）。

設備面の対応は、認証制度に基づいて、県で補助をするようにしている。

換気扇の改修などの必要な設備投資は、4分の3、県が補助を出すことにしている。

ぜひ、ご利用していただきたい。

### 15 ページ

従業員へのお願いは、滞在時間の対策です。

お客さんに長くいてもらうのはいいということだが、本音を言えば、お客さんの滞在が短くても、長い時間いるだけの料金を払ってくれた方が客の回転がいいわけなので、そのように言われたらいいと思います。

言いにくいかな。

普通は、狭い店にして、お客が立て込んできたと言って出ることを促されるのではないかと思う。

ここは予約席だ、満席だと言って、退席を促すという手段もあろうかと思う。

お酒を提供する店は、従業員が全員マスク着用をしているほうが望ましいと思う。

お酒を売る店ではマスクをしていて、注ぐ店でマスクをしていないのは、逆のような気がする。

マスクを従業員からすることがあればいいなと思います。

それから、カラオケは、なるべく利用しない方がいい。

お酒とカラオケというのは相性が良くて、感染リスクを飛躍的に大きくさせます。

マスク着用した上でカラオケをと、笠原先生は言うておられる。

うまくできるのかは、わかりませんが。

また、マスクの消毒を定期的にもおすすりめされている。

設備面では、換気の窓が少ない場合は、強力な換気扇をつけたり、全開することを奨励されている。

パーティション・アクリル板は必要だと、協会を通じて事業者をお願いしてほしい。

今日の対策本部会議の情報共有を、提案していただきたい。

下には、店の対策を載せた。

体調の悪い従業員は無理して来ないでくれ、風邪症状があるお客さんは無理して入らず改めて来てくださいと言うのがいいと思う。

入店すると手指消毒をしてもらおう、物品を丁寧に消毒するなどの細かい注意があると、感染リスクが減ると思われます。

## 16 ページ

利用者の方への注意は、滞在時間の対策。

店主が魅力的でも、長時間滞在しないで「また来るよ」が一番喜ばれるお客さんではないかと思う。

笠原先生は「マスクを着用した上で、歌いましょう」と提案されている。

設備面の対策のある店を選びましょう。

宿泊・飲食店の認証をしている店は比較的安心だと思う。

## 17 ページ。

家庭に持ち帰って、家族にうつして、家族が家族以外の人にうつす。

この連鎖がずっと続いている。

家庭をスナックだと見立てると、スナックに行つてうつして、スナックからスナック外の人にうつしている。

これが今回のケースです。

注意事項になる。

## 18 ページ。

ワクチン接種との関係。

ワクチンの接種が進んだ場合でも、(予防効果は) 100%完璧ではない。

酒を飲んで、カラオケ、あるいは騒ぐのは、我々日本人の一つのパターンだが、酒は静かに飲む。

酒を飲んだり、会食するときは2人に制限、4人に制限というのは、「騒がないで」ということの裏返し。

奈良はそこまでは言うてないが、マナーが大事だと思う。

## 19 ページ

このような感染が増えたのはデルタ株が蔓延しているのではないかと調べた。

## 20 ページ

デルタ株の状況。

6月20日以降の検査ではデルタ株の確認はあまりない。

デルタ株の検査数は増えているが、最初に3名出た後はあまり増えていない。

ただ、東京都で感染が下げ止まり、またリバウンドしているのは、デルタ株だといわれている。

大阪が今後(感染が)伸びたら奈良は共連れで伸びる。

そのときはデルタ株が入っているとの想定で注意が必要だと思う。

現在の奈良県のリバウンドはデルタ株では、なさそうだ。

## 21 ページ

以降はワクチン接種の早期展開の情報提供の共有。

## 22 ページ

6月29日現在で1回目の接種が61%、2回目の接種が22%になっている。

## 23 ページ

ワクチン接種済人数。

表は、1回目の接種率が低い順番に並んでいる。

奈良市、広陵町。

広陵町、増えてきたんだな。

高田、川西と並んでいる。

## 24 ページ

市町村別の接種率の状況。

市の方は、一番低い奈良市が42%。

高い桜井市が77%。

30ポイントほどの差がある。

町で一番低い広陵町が42%、平群が87%。

倍以上の差がある。

村では、低い十津川でも、1回目で76%。

曽爾が87%。

十津川以外は2回目もほとんど終わっている状況。

## 25 ページ

以降は、高齢者ワクチン接種の市町村の1回目、2回目の接種状況のグラフ化。

市のグラフ化。

## 26 ページ

町のグラフ化。

27 ページ。

村のグラフ化。

28 ページ

高齢者のワクチン接種が進めば、高齢者の感染率が下がるのではないかと思われる。

高齢者の感染率は市町村でまだ正確に取れていない。

ワクチン接種率と感染者の相関関係の資料。

相関関係は弱い負の相関だが、接種が進めば強い相関に変わってくるように思う。

それがどのように並んでいるかをグラフ化したもの。

三郷町の感染率が高いのは、クラスターの影響。

ワクチン接種が進めば、感染率が下がるだろうが、統計では、まだうまく把握できない。

高齢者の接種が進めば、高齢者の感染は激減しているのが実情です。

市町村別にやるのはちょっと遅れる。

今回は高齢者の接種と感染率が出せると思う。

29 ページ。

新しい試み。

ワクチン接種の効率的な展開。

先ほど言ったように、接種がほぼ完了している町村がある一方、まだ接種が進んでいないところは、

ワクチンが余って在庫がある。

65歳以上のワクチンは、各市町村に6月中に配送済み。

次のワクチンは、7月以降です。

早く64歳以下に接種したいところにファイザー製のワクチンを配分してほしいという声が強くなってきた。

今後、国から7月になるとまた割り当てがある。

それは64歳以下の割り当て。

その配分の基準を市町村と調整して、図のように、決めたい。

高齢者の接種率の高い市町村に優先的に配分したい。

64歳未満分のファイザーが来たら、早く打った所に早く配分する。

今までは一律に市町村に配分したが、今度は県にリザーブして、早く打ったところから配分しようということ。

早く打ったもん勝ちですよ。

勝ちと言っても、最後には回ってくるが、早く打ってもワクチンが来ないということはないということ。

ワクチンの在庫が少ない市町村に優先的に配分する。

接種状況 VRS (ワクチン接種記録システム) は、市町村別の接種者数がわかる。

それを見て、県で早く打ってもらえるところに配分するという方針を今日、決めて打ち出したい。

その関係で、市町村のワクチンの在庫数を教えてください。

「うちはないから早くください」というなら、ワクチンの在庫を調べないといけないので、調べさせてくださいということ。

30 ページ

64歳以下は、まもなくワクチンが来るので予約しないとイケない。

そのための接種券が、進んでいる県と遅れている県があることがわかってきた。

64歳以下12歳以上への接種券の配送状況は、表のように配送済みの100%の市町村がある一方、配送率の少ない市町村もある。

まだ配送していないところも、6市町ある。

このようなことも公表して、早期配送を促していきたい。

### 31 ページ

研修医派遣による接種が進んでいる。

その状況の報告。

現在まで接種回数、6万4000回までしていただいた。

延べ565人が出動していただいた。

### 32 ページ

研修医接種の貢献度。

奈良市では23%が研修医の接種。

多いところは高田48%、御所の50%、平群の62%、三郷の60%、斑鳩の60%。大変貢献度の高い市町もある。

### 33 ページ

職域接種。

新しい追加の申請は受け付けない、モデルナワクチンをしばらく配送できないという国の達しです。

現在までに申請して承認済みになったのは、7団体。

申請中が10団体ある。

その申請が承認に結びつくかは国の審査待ち。

その報告です。

### 34 ページ

最後、コロナに関して差別偏見(をなくしましょう)。

パニックになりがちですが、パニックになっても、ウイルスは平気。

人間のパニックを見て楽しんでいるのではないかと思われるほど平気。

あまりパニックになって、人を差別したり、悪者を見つけたりしないよう、お願いしたい。

今日の対処方針会議の決定のお願いは以上です。

議長／只今知事から最近の感染状況をふまえた、県民の皆様、事業者あるいは利用者の方へのお願い並びにワクチン接種の早期展開を図るために県の調整等の方針について説明いただいた。

このほか、この場で情報共有すべき事項、確認事項等あれば、発言をお願いします。

それでは本日の会議の確認事項として、確認したい。

知事から説明があったように、感染状況を踏まえて、県民、事業者、店舗の利用者の皆様に感染防止に向けた取り組みをお願いし、感染拡大の防止を図っていくこと。

併せて、ワクチン接種の早期展開に向けて、県として調整に取り組むことを、本日の確認事項とします。

よろしいでしょうか。



ありがとうございました。

知事／感染した飲食店とか、スナック業界に協会があるかどうか分からないが、こういう状況を協会によく周知してもらいたい。

業界の中にも、こういうところに行く方もおられると思う。

行きそうな業界を抱えている関係団体を所管している部局でも、協会の人があれば、「こうなっているから注意してください」とその都度(言ってほしい)。

あるいはこの際、配送してもいいが、周知を図っていただけるとお願いしたい。

関係業界への周知、協会を通じての周知をお願いしたい。

議長／各部局から関係団体に周知をいただくときは、本日の本部会議の資料もあわせてご通知をいただきたい。

よろしく申し上げます。

司会／それでは、以上をもちまして、第24回奈良県新型コロナウイルス感染症対策本部会議を終了します。本部員の皆さんはご退席願います。

ありがとうございました。

引き続き、知事定例記者会見の中で報道機関の皆様のご質問をお受けいたします。

司会／報道機関の皆様、よろしいでしょうか。

それでは知事定例記者会見に移らせていただきます。

本日の質疑では、後ほど、その他のご質問も受けませんが、初めに、ただいまの新型コロナウイルス感染症対策本部会議の議題に関して、質問のある方は挙手にてお願いしたい。

質問いかがでしょうか。

NHK／オイカワです。

ワクチンの展開について、尋ねたい。

国の方から、若干、配送量に関して、いろいろな情報が日々寄せられている。

今回も、市町村への配分方法の新しいルール、方法決めたということ。

他方、県の方で今、広域の接種会場を設置しようとして準備していたと思うが、そちらに関しての見通し、あるいはワクチン配送量の不透明さの影響はあるか。

知事／ワクチンの接種で、県も広域接種をすると表明した。

その後、広域接種の必要性、可能性について検討していた。

33ページにある、申請中の10団体の中に県は入っている。

一応申請をしたということです。

ただ職域接種は、国の方で必要かどうかを選別するので、承認されるか、わかっていない。

職域接種のガイドラインには、職域接種は市町村接種とは分けて、モデルナでやるとなっている。

市町村の第1回目の高齢者接種のワクチンは、ファイザーが入ってきている。

次の64歳未満のファイザーの配分は、早くやるところには早く接種を進めるように、29ページにある県の

やり方でやる。

一方、職域接種は、33 ページのように 7 団体は承認されて、モデルナで進む。

その他の職域接種 10 団体に県も入っていこう。

そのときにどのような方針で、県は接種の対象を決めるのか。

あるいは量はどれぐらいか。

市町村接種の打ち手や能力を阻害しないようにと、ガイドラインにある。

並行してやれるようにというのは、国の方針です。

そのような配慮は、当然、県でもしているが、これからどのような内容で展開できるか。

承認が出ないと、モデルナは来ない。

展開するかどうかは、調整をしないといけない。

ただ申請はしました。

職員／補足します。

職域接種の申請中のものは、県庁の職域として申請しています。

県としては、広域接種は、申請はしているが、国からできるともできないとも連絡がない。

確かな情報が入り次第、詳細をかためて公表していきたい。

司会／よろしいでしょうか。

毎日新聞／県庁の職域接種とはどういう意味ですか。

知事／新しい話ですね、県庁の職域接種は。

広域接種は、市民だれでも(が対象)。

県庁の職域接種は、県庁関係者がやるというアイデアです。

例えば、エッセンシャルワーカーと言われるような人が中心になる。

警察官とか保健所職員。

保健所職員は済んでいるかもしれないが、警察官とか現場で人と接触するような人を、県庁職域接種の対象にしようというアイデアだと思う。

職員／補足します。

県庁職員への職域接種については、6 月 25 日までの職域接種の申請期限があったので、県庁としてできないかと、申請を済ませている状況。

その対象としては知事からあったように、危機管理といった観点から警察職員、県立教職員、県庁職員の中でも、危機管理系に対応する業務を対象として申請している。

それが実際に確保できるかどうかは、今後になる。

記者／対象人数はどれくらいと見込んでいるのか。

職員／現時点では概算で 5,000 人程度になる。

記者／もう一方、広域接種だが、会場は奈良市と橿原市周辺に一箇所ずつのこと。

橿原市で取材をしたが、橿原市の分庁舎を使いたいと県職員が見に行くと聞いている。

そこを使う予定なのか、なんらかの理由で使えないのか、会場として決まっているのか。

職員／細かいことなので、私から対応する。

広域ワクチン接種会場については、可とも否ともまだ来ていない。

正直言って、いつから始められるのか、どれだけの量が来るのかが不透明。

会場については、いろんな予定が入っている会場が多々あるので、様々な候補地をあたっているところだ。その中に分庁舎もあたらせてもらっている。

記者／会場未定ということ？

職員／詳細が決まれば、また（発表する）。

日と量が決まらないと、場所も固められないので。

記者／知事は、いつワクチン接種をするのか。

知事／7月に。

今はもう7月だが、7月中に2回終わるつもりでいる。

ギリギリになるかもしれない。

1回目を打たないといけないのだが、まもなく打てると思う。

まだ打っていないので。1回目間もなく、打ちたい。

記者／ありがとうございます。

司会／その他の質問はどうですか。

NHK／度々すみません。オイカワです。

ワクチンの配分の話に戻って恐縮ですが。

国から日々いろいろな情報が降りてきていること、広域会場については、可とも否とも連絡が来ないと言う話があった。

こういった状況を、都道府県を預かる立場としてどのように思っているのか。

また、国に対して何か言いたいことはあるか。

知事／特にない。

オリンピックが迫っているので、オリンピックの為の予測外の、外人への接種も含めて、用意をしていると推察している。

（メディアの）どこか、ニュースを取っていますか。

別に教えてほしいという訳ではないのだが。

普通それくらい推察する。

オリンピックが迫っているから、ワクチンを確保しておきたいと思う。

職域接種になると、東京に集中するのは当然だと思う。

これが、自然と集中しているのか、むしろ誘導的に集中しているのかわからない。

どちらでもよいと思っている。

オリンピックには、いろんな国から来られるので、来た選手・役員がうつされないように、また、来た人がうつさないように、PCR・隔離・ワクチンは必須品になってくる。

日本はワクチンもないのか（と言われ）、地方に行っていますと言うわけにはいかない。

そのように解釈している。

国に対して来ないですねと（言いたい）状況ではあるが、いつになるか不明。

オリンピックが終われば明確になると思っている。

今の段階は一時的に雲がかかったような状況だと思っている、それについてとやかく言うつもりはない。

司会／そのほかに、質問どうでしょうか。

毎日新聞／度々すみません、クボです。

今日発表があったワクチンの効率的な展開は、県独自の発想か。

知事／ワクチン？

記者／高齢者の摂取率の高い市町村に優先配分(すること)。

知事／ほかはやってないの？

あまり、聞いてないが。

職員／大きな方針として、河野大臣がワクチンが進んでいる所にどんどん(送る)と、6月中にかなり言っておられた。

きちんと在庫の徹底管理をしながら、有効に、どこかに偏って溜まることなく早く回せるようにする、本県独自(の発想)です。

知事／国のワクチン配分方針が、まず市町村に接種を単一で担わせるパターン。

ファイザーがきて、別立てがモデルナによる職域接種となった。

そのときに、市町村に高齢者用を配分すると決めて、それが順調に進めばいいのだが、できるところとできないところの差がでてくる。

全国の統計を見るとよくわかるが、県でも、できるところは早く進むし、できないところはファイザーが余っている。

第1回目の65歳以上の分は既に市町村に行っていて、余っている所がある。

今起こっているのは、64歳以下も打ちたいので、65歳以上で余っているところはくれないかということ。

しかし65歳以上の人の分をまわすと、そのうち打つのでからと抵抗があるかもしれない。

そこまでしなくても64歳未満の分が間もなく来るから、それを配分すると、事なきを得るのではないかというのが、29ページの発想です。

これは独自かもしれないが、普通のアイデア。

仮に、配分されたものを全部県に渡して、早く打てる所から配分しなさいというガイドラインがあれば、各地域はどんどんやったと思う。

65歳以上の分は、市町村に平等に渡そうというのが国の方針だったので、接種の時間差が発生しているのが、現実だと思う。

これについて国は、おかしいとも言えない。

それは市町村の能力の差ということになる。

国は、市町村に打っただけは渡してあるのだから、早く打ってあげればいいのかという言い方になると思う。県の配分の総量は決まっている。

もう 65 歳以上は打ってしまったよ、弾は来ないのかと撃ち手はうずうずしている。

でも横の部隊から弾をもらうというのは、なかなかできないから、新しく弾薬が来るときは、そちらに回しましょうという考え方。

この考え方は、普通あり得ると思う。

まだそこまで各県はしてないかもしれないが、苦肉の発想という程度です。

記者／市町村から県に要望があってから始めるのか、実際もう始めている自治体があるのか。

すでに調整を始めているところがあるのかどうか、教えていただきたい。

職員／調整を始めているというのはどういうことか。

記者／ワクチンが足りないので、余っているところから欲しいという要望です。

職員／市町村からは、早く 64 歳以下に進めたいので、ワクチンを提供してほしいという話は来ている。

そういう背景もあって、知事も申すように苦肉の策かも知れませんが、こういう策をとっている。

知事／私にも、大淀町長から、ワクチンが足りないから、奈良市とは言わなかったけれども、あの辺りで余っているのを回せないかという話があった。

それで先ほどみたいに、回せないのかと担当に聞いた。

回さなくても、次来るから次の弾薬を回すからと、調整してくれたという顛末です。

司会／その他は？

産経新聞／クワジマです。

細かな確認ですが、ワクチンの配分に関して。

例えば奈良市とかで既存で余っているものを、もう一度持って行って配分するのではなくて、次に来るものを(配分する)ということですか。

それは市町村ごとに届くんですね。

それをどう配分するんですか。

職員／いきなり物が届くわけではなくて、基本的に希望量を国に上げて、国の方で県に全体で何箱というふうに来ます。

それを各市町村に分ける際に、今の考え方で落とし込んでいくという形になる。

記者／一度県の方に届いて、それを県が配分する？

職員／物が届くのではなくて、配分量という数値がわかるので、29 ページに示す考え方に基づいて各市町村に貼り付けを行って、それを国に報告して、国のファイザーが市町村の冷凍庫に届くということです。

記者／わかりました。

ワクチンとは別件ですが、知事が先ほど指摘された飲食店でのクラスターについて。今回、飲食店で発生したクラスターの中に、すでにワクチンを打っていた人はいますか。

知事／わからないけど・・・担当わかりますか。

職員／そこまで個人情報をつかんでおりませんので、わかりません。

知事／飲食店とワクチンとの関係の質問ですね。

接客をするから、早くワクチンを打ってくれという要望は、出るかもしれないとは思っている。宿泊業界とか、エッセンシャルという言い方が適切かどうかわかりませんが、接客業界のホテルなどは、人にうつす可能性もあるから早くワクチンを打たせてくれという要望はいろいろな地域で出ているように思います。

高齢者を中心に日本は進んでいるが、どの段階かで職業で差をつけるかどうか微妙なところ。

鍼灸業の人から、接客するから早く打ちたいという要望書は届いていた。

どのようにするかは、市町村で判断することになっている。

広域職域接種が始まったときに、対象をどのようにするかが課題になってくると思っている。

常識的なのというのがなかなかないので、その際はよく考えないといけないかなと思う。

今の質問の中で、従業員がワクチンを打っているかどうか、桜井の店のママさんが打っていたのかどうか。聞けばわかるのですが、聞いてない。

65歳を過ぎていれば打っている可能性もあるが、それはわからない。

これから、考慮を要するマターかなと思う。

記者／今回のクラスター発生の飲食店の中に、県から認証されている店舗は、なかったですか。

知事／なかったと思う。

司会／他にご質問は？

読売新聞／ツチャです。

広域接種会場に戻りますが、前回の話で、7月下旬から開始という話があった。

現状、可否がわからないということで、7月下旬に開始は、現実的に可能かどうか伺いたい。

職員／おっしゃる通りです。

7月下旬からスタートできるかどうか、大変難しいかなと担当としては思っている。

いずれにしても、いつどれぐらいもらえるか、詳細が決められませんので、決まりましたらご案内したい。

知事／7月下旬という目処を立てたのは、高齢者接種が7月中に全体が終わる。

7月下旬なら、高齢者が概ね済んでいる時期だから、次の展開を考えないといけない。

一つの展開は、64歳未満という市町村の展開は進む。

今は予約をしないとイケないので、早く予約するためにファイザーを回してくれたら予約の準備をするという先ほどの話になる。

それとともに、職域接種と言われる中での公共団体の広域接種が入ってもいいのではないかというので、7月下旬の目処を立てた。

モデルナの配分が不明になってきたのが大きな原因。

配分があれば、そういうやり方が可能だし、入ってくる限りどんどん部隊を展開して、市町村の第一師団だけではなく、職域の第二師団、それから自衛隊の第三師団、地方公共団体の第四師団というふうに師団をわけて、弾を撃つように展開するのが、可能性があろうかという考え方です。

そういう比喻をして展開を考えている。

弾が来ないと撃てないということです。

来れば撃つ準備はしていきたい。

司会／他にコロナ関係で質問は？

朝日新聞／ワクチンの配分量だが、本来ならいつ示されるものが、今、未定になっているのか、具体的なスケジュールを教えてください。

職員／広域接種の関係？

(記者のマイクが入っていないので聞き取れない)

職員／それが遅れている。昨日までの段階では来ていないので。

記者／何日に示されるはずだったか、日にちはわかりますか。

職員／今週の中旬だったと思う。

記者／今週の中旬に7月下旬のものが？

それがまだ来ていない？

職員／今日は確認していないが、昨日はまだ来ていなかった。

記者／これは遅れているうちに入るのですか。

職員／遅れますとメールが来ている。

記者／国から遅れると言われている？

はい、わかりました。

司会／その他、コロナ対策本部会議の質問はいかがですか？

その他のご質問を挙手でお願いします。

(コロナ関連以外の質疑応答は省略しました。)(59:30~1:18:00)

司会／その他、ご質問いかがでしょうか。

産経新聞／またコロナに戻って恐縮です。

今回、これまで県内で顕著でなかった飲食店感染が、数字として出てきた。

これまで知事は、あまり事例がないということで、極端な規制は必要ないというスタンスだったと思う。今後こうした状況が継続したり、あるいは悪化した場合に、規制を含めた飲食店対策を検討するご予定はありますか。

知事／飲食店対策は、大阪市のようにエリアで時短するのをイメージされると思う。

しかし、奈良のケースを見ても、桜井で1件、高田で1件、橿原で1件と飲食店のクラスターが発生したら、それぞれの町の飲食店が時短するのは、(飲食店対策として)あまりふさわしくない。

今ある飲食店対策は、まん延防止になっている。

奈良市も時短はしたが、飲食店対策はしなかった。

しなかったけれど、大阪がやって(感染者が)下がってくると、下がってくる。

時短の結果、減ったのかどうかは、わからない。

しかし思わぬところで(飲食店感染が)発生した。

ケースとしては、クラスターだと思われる。

飲食店でクラスターと認定されれば、割りと深く調査する。

奈良市内で5件と言っている。

焼き肉屋でカラオケをしたとか、個別に似たようなケースはわかっている。

時短するよりも、焼き肉屋でカラオケは提供しないでくださいと注意して、守ってもらったら、発生しなかったと思う。

時短しても、カラオケをしたらうつるわけだから、奈良は時短はあまり効かないと相変わらず思っている。まん延防止のような対策は、奈良にふさわしくないと思っている。

そんな飲食店対策ではなく、個別の飲食店の注意事項を重ねていこう。

エビデンスと、こういうことを止めてくれれば出来るというナッジ(nudge)のやり方で。

飲食店対策としては、カラオケスナックも含めて認証制度でなるべく安全な飲食店対策を進められたらと思います。

質問は、飲食店対策をするのかということだが、従来の飲食店対策をするのかという意味だと思う。

従来の飲食店対策は、しません。

個別の注意をして、認証制度で安全な飲食店を作る方向で、奈良は動きたいと思う。

記者／わかりました。

今回のケースで、ワクチン接種済みかどうかはわからないということだが、今後接種が進んだときに、それが安心感に繋がって、逆にマスクをつけないだとか、会食をしてしまうことが増えていく可能性が懸念される。

当然、注意喚起は今回も行うということだが、何か具体的な対策は？

あるいは、観光都市なのでワクチンを接種された方を、「いまなら。」

にぜひ来ててください、安心安全に旅行を楽しんでくださいというのは、今後必要になってくると思う。

並行した感染対策は何か想定されていますか。

知事／今のところ認証制度で、来る人も働いてる人も、マスクをすることになる。



来る人のワクチン接種率も高くて、従業員も接種で安全率がすごく上がっていくと思う。  
そのようなことをだんだん見える化して、これだけワクチン接種が進んでいるとか、この店では大丈夫と  
いうのが、安全の証明になると思う。  
観光業で安全の証明は、各地でいろいろやっている。  
奈良県でも安全の説明を、いろんなやり方で出来るようにしたい。

司会／その他にご質問いかがでしょうか。

NHK／オイカワです。

今の観光の話にも関わるが、県として「いまなら。」キャンペーンに、予算もつけていたと思う。  
予算計上時には、予定としては7月頃に何か始められればという状況だったと思うが、今、  
この検討状況は？  
それから何か新しいルール作りを含めて、見通しなど立っていますか。

知事／前回の報告を受けた時点でも、中身についての検討は、相当進んでいる。

これの予算化は、まだしてなかったっけ？

やり方は、従来の「いまなら。」の延長でいいと、その時点で判断したことがある。

奈良県民に限って、奈良県の観光を発見してもらおう。

それをこの時期の観光振興に繋げようというもの。

今、Go To も利用できる面もあると思うが、それは外から来られる人への Go To。

奈良で「いまなら。」を発出できるかどうかは、条件がいると思う。

県の判断になると思う。

今度は、Go To イートのように齟齬のないよう、私が判断したいと思う。

(私が)知らないままで進むことはないと思う。

「いまなら。」をやるときには、会見でもして、何日後にやると発表するのがいいと思う。

早くできればいいと私の立場でも思う。

感染が収まったと確認できるようになれば、発表できると思う。

ワクチンの接種は、一つの武器になる。

ワクチンの接種がある程度進んでくると、外国でも接種が5割を越えると、規制緩和する。

次、デルタが出ると怖いので、その様子も探っていかなきゃいけません。

水際対策は難しい。

デルタが出て、外国から関空に飛行機が降りて、デルタを持って奈良県に来られたときに、水際で防ぐ  
すべがない。

国で水際やるといっても、なかなかできない。

観光地は、従業員にうつらないよう、従業員がうつさないようにする、従業員対策で、できる面もある。

利用者対策は、なかなか難しい面がある。

日本は水際水際と言うが、本当は地元対策で来てもうつらない、うつさないのが、大きなポイントだと思う。

記者／今、ワクチンの接種状況も一つの判断材料とおっしゃったが、イメージ的には、県民の5割6割と  
いうことか。

それとも何か具体的に考えているか。

知事／いや、ないですね。

転機を読んでいるだけです。

オリンピックがどう動くか。

場所的にこちらは関係ないが、東京でどのようにマネージするのか。

オリンピック組織委員会が、東京都知事と一緒にあって、感染者がアスリートや役員や観客にいないかもしれない中で、どうマネージするのかなど思っている。

観光への対応はどうか。

日本人は、集まって騒いで、うつるという特徴がある。

特に花見のとき、外国人から見ると、日本人はうつるんじゃないかと思われたことがある。

花見騒ぎが、オリンピック騒ぎも連想させる。

外国では、大谷選手が大リーグで活躍して、結構観客が入っている。

1万人とか2万人のレベルではない。

オリンピックはもっと下(観客数が少ない設定)なのは、どうしてかなと思う。

日本人は騒ぐ習性があるから怖いというのなら、逆に、騒がないなら見ててもいいのではないかなと思う。

皆が騒いでワーッと盛り上がるパブリックビューの方が怖い。

観客席で拍手しているのは、そうはうつらないと思う。

見かた、騒ぎ方の違いがある。

外国の観光地のように、ドイツ人がバーッと仲間で飲んでいるときもあるが、ああいうのはやめましょう。

普通は、家族とか知り合いで、2人～4人で静かに飲む。

笠原先生によると、隣で飲むのと前で飲んで、話をするのは感染力が11倍違うとのこと。

コロナ時代の接触マナーの問題だと思う。

日本人もマナーが良くなって、他人への配慮(をしようになった)。

外国のレストランで言われたことがあるが、日本人の客は、誰かが行くとワーッと大声がする。

外国の人は、大声を出さない。

笑っても、そこら辺だけで収まるようなレベルで、コントロールする。

日本人は、空に聞こえるようにワーッと盛り上がる。

うつったなと思わせる。

マナーが変わってくると、コロナ時代の飲食の仕方も変わるのではないかな。

奈良は盛り上がらないな、静かだな、しかし安全らしい。

こういう評判の方が私としては望ましい。

全く余計なこと言いまして・・・。

司会／よろしいでしょうか。

その他ご質問いかがでしょうか。

時事通信／ハマです。

東京都の小池百合子知事が過労で入院された。

同じくコロナで陣頭指揮を執る知事としては、どう受け止められたか。

知事／小池さんのこと？

小池さん、タフだから。

昔から知っている人なんです。

歳はタブーだから。

小池さん、歳をとられたのかなという思いがしたり、本当に疲れたのかなとかと思ったり。

しかし、あの声は本当にお疲れになったよう。

小池さんでもお疲れになるのだなという印象。

知事さんはタフな人が多いかもしれませんが、私はタフではない。

おまえ、よう(体が)もってるなどと言われる。

本当は弱いですから、タフな知事さんは羨ましい。

記者／知事の体調管理の秘訣はあるんですか。

知事／体調管理？

大坂なおみさんが、全仏オープンの記事会見が嫌だと。

あの気持ちがわからないわけでもない。

冗談、冗談。

むしろここで、元気をいただいているのかもしれませんが。

今日は冗長になって申し訳ありません。

先ほど質問された市長選の記事、あの記事のような、中身の質問があると、ここも楽しみになると思う。

体調管理は、環境管理ということです。

ストレスフルな環境は、ときに出現するが、役職上当然だと思う。

いたわってもらう必要は全くない。

こういう会議で、大坂さんと違って、元気をいただいている面がある。

さっきもそのつもりで言った。

中身に神聖なことがあれば、すごく元気になる。

そうでないのが時々あるから、がっかりする。

そのようなのが、私のパターンです。

あとは、小池さんもそうだと思うが、我々の仕事は、仕事から逃げないのが大原則。

仕事から逃げないで、健康管理をどうするか。

仕事を楽しめたらそれに越したことはない。

大坂さんのばあいは、仕事はラケットを振ることで、喋るのは仕事の外と思われたのでしょうか。

これ(会見)は、私にとっては仕事の一部で、もちろん歓迎する場所です。

その中で仕事についてのやりとりは、ストレスの元になるが、それをどうこう言える立場にないし、

むしろ元気をもらうこともある。

しかし、タフではないということだけは付け加えて、工夫する。

そうですね、よく寝ることかな。

時々、記事を思い出して、夜中に目が覚めることもあったりする。

どんな記事を思い出すのかと質問があっても、何か忘れたけど、というような感じですけどね。

いい記事が出れば、すごく眠りがいい。

褒めてもらうのと違って、真実を追求された記事は、拍手ですよ。

市長選の記事がすごい。

毎日すごいじゃないですか。

司会／よろしいでしょうか。

その他ご質問いかがでしょうか。

幹事社さんよろしいでしょうか。

それでは、本日の知事定例記者会見質疑の方を、終了させていただきます。

ありがとうございました。

知事／冗長になり、すいません。